

## 平成29年3月期 第72期 業績概要 第1四半期

桂川電機株式会社

当第1四半期連結累計期間(平成28年4月～平成28年6月)におけるわが国経済は、これまで政府主導の経済・財政政策等により企業収益や雇用等の改善傾向など緩やかな景気回復基調にあったものの、新興国の成長鈍化や不安定な欧州・中東情勢に加え、米国経済の先行き不透明感の強まり等によって株価や為替は不安定な状況となり、企業収益や個人消費に陰りがみられました。さらに英国の国民投票におけるEU離脱の選択で、金融資本市場は株安や急速な円高の進行で大きく変動するなど、景気下振れリスクによる不確実性が高まり、景気の先行きは予断を許さない状況で推移いたしました。

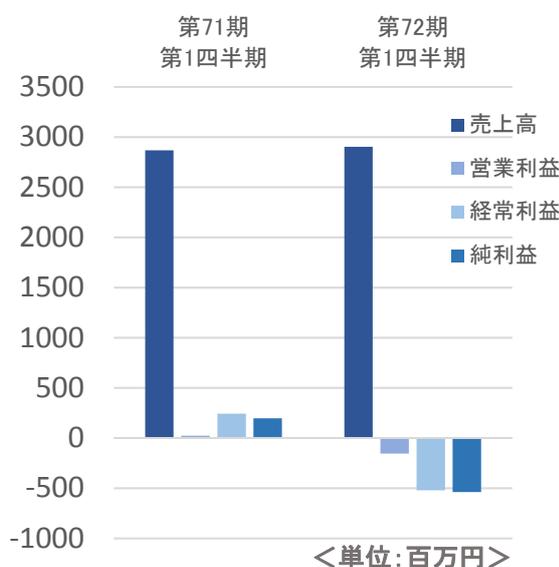
世界経済は、米国では労働市場の先行きに陰りが見られるなか、個人消費は住宅市場と合わせて堅調で、経済は底堅く推移する一方、欧州では景況感の改善が見られながらも英国のEU離脱による世界経済に及ぼす影響が懸念され、アジアでは新興国経済の減速など、世界経済は先行きに不安定要素を抱えた状況で推移いたしました。

こうした中、販売面では北米市場を中心に、販売活動を行ってまいりました結果、当社グループの当第1四半期の連結売上高は、モノクロ機の販売が低調となりましたが、カラー機(KIP800シリーズ)の販売が好調なことにより、29億3百万円と前年同四半期の28億67百万円に比べて35百万円の増収となりました。売上高は増収となりましたが、営業損益は原価率の上昇を吸収しきれず1億56百万円の営業損失(前年同四半期は4百万円の営業利益)、経常損益は急激な為替相場の変動により、為替差損3億73百万円を計上したことにより5億22百万円の経常損失(前年同四半期は2億42百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損益は5億38百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失(前年同四半期は1億97百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

連結業績概況

<単位:百万円>

項目	第71期 第1四半期	第72期 第1四半期
売上高	2,867	2,903
営業利益	4	△156
経常利益	242	△522
親会社株主に帰属する四半期純利益	197	△538



## 営業外損益

営業外損益は為替差益を3億73百万円計上したことにより、3億65百万円の損失となりました。

<単位:百万円>

	第71期 第1 四半期	第72期 第1 四半期
営業外 収益合計	251	21
営業外 費用合計	13	386
営業外 損益	238	△365



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート  
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

## 事業別の業績

### 画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第1四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べて22百万円増収の28億51百万円(前年同四半期は28億29百万円)となり、営業損益は1億49百万円の営業損失(前年同四半期は5百万円の営業利益)となりました。

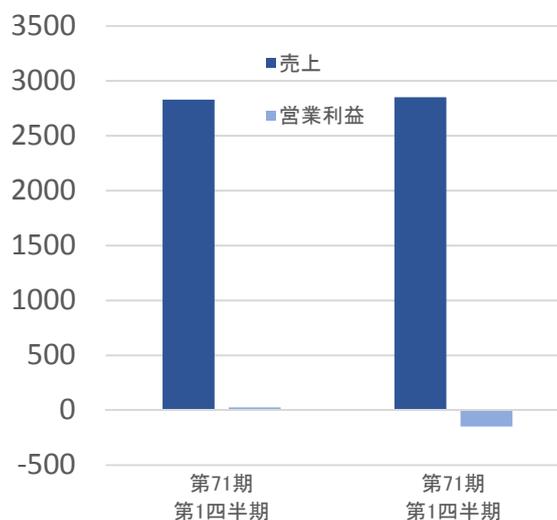
- ・売上高は昨年同時期と比べて22百万円の増収
- ・昨年発売のKIP800シリーズの売り上げが好調  
(従来のカラー機と比べ大幅な出荷台数の伸び)
- ・開発費を含めた初期投資費用の回収中
- ・従来機(モノクロ機)の販売低調が影響

### 今後の課題

- ・生産拠点の変更を含めた、国内外の事業の選択と集中
- ・モノクロ機の業績の回復
- ・初期投資費用の早期回収

<単位:百万円>

	第71期 第1 四半期	第72期 第1 四半期
売上	2,829	2,851
営業利益	5	△149



## その他事業

その他の事業のモーションデバイス事業の当第1四半期の売上高は51百万円(前年同四半期は38百万円)で、営業損失は7百万円(前年同四半期は0百万円)となりました。

- ・売上高は昨年同時期と比べて13百万円の増収(34%の増収)
- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

<単位:百万円>

	第71期 第1 四半期	第72期 第1 四半期
売上	38	51
営業利益	0	△7

